

INFORMATION : 期間 平成21年－22年

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/20648

INFORMATION

【期間：平成21年～22年】

第1回金沢大学未来開拓研究公開シンポジウムー医薬保健研究域ー

【テーマ】 「病気を予防するための食と運動と環境」

【日時】 平成21年1月24日（土）13時20分～18時30分

【場所】 石川県立音楽堂邦楽ホール

【講演者と講演題名】

特別講演 山口 香 筑波大学准教授 スポーツと健康 ー気づき、感動、行動ー

服部 幸應 学校法人服部学園理事長・服部栄養専門学校長 食育のすすめ ー大切なものを失った日本人ー

厚生労働省指定発言 佐原康之 厚生労働省医政局総務課医療安全推進室長

その他 本学関係者による講演7名

【趣旨】 病気の治療に対する最先端の研究・教育を実施するために様々な分野で有機的に連合し、これを基に国民、県民、市民に対して最高水準の医療を提供しております。さらには、昨今、予防の重要性が唱ばれる中、新しい学問領域として臨床・生命科学・薬学・保健学を包括した予防医学・環境医学分野においても国内外に目を見張る実績を挙げております。本シンポジウムは、本医薬保健研究域・学域が一体となってわが国の予防医学・環境医学の担い手であることを内外に明らかにし、「食と運動と環境から健康を守る」ことをevidenceをもって啓蒙を図る事業として行うものです。

第59回日本肺癌学会北陸支部会開催

平成21年2月14日（土曜日）午後12時45分より17時55分まで、第59回日本肺癌学会北陸支部会を金沢大学宝町キャンパス臨床第3、4講義室にて開催いたします（当番世話人：金沢大学心肺・総合外科 小田誠）。

セッションは「画像・診断」「肺癌化学療法・遺伝子」「腫瘍随伴症候群」「小細胞肺癌関連、まれな症例」「縦隔疾患・手術」から構成されており、28演題の発表を予定しております。また、東京医科大学外科第1講座主任教授の池田徳彦先生をお招きして、「肺癌の診断・治療：現状と近未来」の題目で特別講演を行っていただきます。

金沢がん生物学国際シンポジウム2009「International Symposium on Tumor Biology in Kanazawa 2009」

日時：平成21年2月19日（木）8時50分～17時10分

場所：金沢大学医学部記念館

講師：・Sun Jin Kim (University of Texas MD Anderson Cancer Center)

・Tohru Kiyono (National Cancer Center)

・Toshiyasu Taniguchi (Fred Hutchinson Cancer Research Center)

・Seiji Yano (Kanazawa University)

・Hyeyoung Kim (Yonsei University)

・Hiroyuki Tsuchiya (Kanazawa University)

・Hee-Jun Wee (Chungbuk National University)

・ZEN Yoh (Kanazawa University)

・Shunichi Takeda (Kyoto University)

・Tarou Yamashita (Kanazawa University)

・Makoto Nakanishi (Nagoya City University)

主催：金沢がん研究所 金沢国際がん生物学研究会

金沢大学公衆衛生学研究会

金沢大学公衆衛生学研究会は、7-8、1月を除く原則毎月第二木曜日の夜に講演形式で開催しています。毎回、疫学・統計解析、アレルギー・内分泌代謝研究、社会医学的研究などの領域から幅広く講師を募っています。学内外問わず、どなたでも参加できます。入場は無料で、事前の申込は必要ありません。部分聴講も可能です。

開催場所：医学類F棟1階 修士課程セミナー室

問い合わせ連絡先：医薬保健研究域医学系 環境生態医学・公衆衛生学教室

TEL：076-265-2218, hibino@pub.m.kanazawa-u.ac.jp

ホームページ：<http://web.kanazawa-u.ac.jp/~med14/index.htm>

開催日：3月12日(木)

17:30～18:00 日比野由利(金沢大学環境生態医学・公衆衛生学) 「応用統計学VI (多変量解析)」

18:00～19:00 渡辺良成先生(金沢大学イノベーション創成センター教授) 「創薬と産学連携」

19:00～20:00 田中純一先生(人間社会研究域法医学系 特任助教) 「四川地震と被災者支援」

北陸実験動物研究会第13回総会・第35回研究会

北陸実験動物研究会は、北陸3県の国立大学動物実験施設（金沢大学、福井大学、富山大学）の教員と技術職員、さらに実験動物取扱事業者を中心に平成8年3月に設立されました。その活動は、北陸地域の動物施設管理者、動物実験に関わる研究者、それを支援する技術者、実験動物関連企業を横断的に結んだ交流の場や関連した話題の提供を通して、より適正な動物実験を推進することを目指し、年3回程度の集会を開催しています。

今回は4月18日に医学類G棟講義室において「概日時計と睡眠・覚醒リズム」をテーマとし、講師として三菱化学生命科学研究所からこの春に本学理工研究域に教授として赴任された程肇先生と、本学医薬保健研究域・医学系教授の櫻井武先生をお招きして公開形式で開催されます。演題は「哺乳類概日時計の発振機構と時計遺伝子」、「オレキシンによる睡眠・覚醒の安定化機構と行動制御」の2題で、何れもマウスやラットを用いた行動解析と分子生物学的手法を駆使して概日リズム制御機構の分子メカニズムを明らかにしようとするものであり、大きな学会でシンポジウムを組まない限り両先生のお話を併せて伺うことはできないほど充実したものとなっています。

神経情報セミナー

テーマ：うつ病は新しいタイプの神経変性疾患か？

講演者：中村 彰治 教授（山口大学大学院医学系研究科・システム神経科学）

開催日時：2009年6月5日午後5時15分から

場所：G棟2階 第3講義室

講演内容：抗うつ薬が、抗うつ効果を発揮するには通常数週間以上の投与期間が必要とされる。このことから、うつ病の病態には脳内で起こるゆっくりとした変化が関与している可能性がある。長期間にわたる変化として、海馬の神経新生（neurogenesis）やモノアミン神経系の形態変化が検討されている。この神経新生仮説とモノアミン仮説について概説する。

金沢大学公衆衛生学研究会

金沢大学公衆衛生学研究会は、7-8、1月を除く原則毎月第二木曜日の夜に講演形式で開催しています。毎回、疫学・統計解析、アレルギー・内分泌代謝研究、社会医学的研究などの領域から幅広く講師を募っています。学内外問わず、どなたでも参加できます。入場は無料で、事前の申込は必要ありません。部分聴講も可能です。

開催場所：医学類F棟1階 修士課程セミナー室

問い合わせ連絡先：医薬保健研究域医学系 環境生態医学・公衆衛生学教室

TEL：076-265-2218, hibino@pub.m.kanazawa-u.ac.jp

ホームページ：http://web.kanazawa-u.ac.jp/~med14/index.htm

開催日：6月11日(木)

17:30～18:00 「実用統計学」 中村裕之(医薬保健研究域医学系教授)

18:00～19:00 「原始生物ラン藻由来物質の材料化～金属吸着剤から創薬まで～」 岡島麻衣子先生(北陸先端科学技術大学院大学研究員)

19:00～20:00 「多胎育児支援とピアサポート」 志村恵先生(人間社会研究域教授)

第8回北陸ポストゲノム研究フォーラム

日時：平成21年6月11日(木) 13:30～17:00

場所：金沢大学十全講堂（金沢市宝町13-1）

講演者：「超高分解能原子間力顕微鏡を用いた液中イメージング技術の最前線」

金沢大学フロンティアサイエンス機構 福間 剛士

「光変換蛍光タンパク質による生きた細胞内のタンパク質動態測定」

北海道大学電子科学研究所ナノシステム生理学分野 松田 知己

「新しいポストゲノム研究ツール、質量顕微鏡について」

浜松医科大学分子イメージング先端研究センター分子解剖学研究部門 瀬藤 光利

問合せ先：金沢大学がん研究所研究協力係 TEL：076-265-2707 FAX：076-234-4527 E-mail：t-kenkyo@ad.kanazawa-u.ac.jp

高安病発見から1世紀—記念公開講座—

高安病の発見から100年が経過したことを記念し公開講座が開催されます。主催は高安病発見から1世紀：記念公開講座実行委員会、後援は金沢大学十全医学会ならびに厚生労働省難治性疾患克服研究事業 難治性血管炎に関する調査研究班です。高安病の発見とその後の歴史についての講演、関係各診療科から専門医の解説、患者と専門医を交えたパネルディスカッションが予定されています。患者、一般市民への啓蒙と高安病への社会的認知を高めることが期待されます。

日時：平成21年6月19日（金） 16:00-18:00 場所：日本都市センターホテル 606会議室

問い合わせ先：医薬保健研究域医学系 血液情報統御学（臨床検査医学）

TEL：076-265-2499, E-mail：lab-med@med.kanazawa-u.ac.jp, ホームページ：http://www2.convention.co.jp/takayasu

神経情報セミナー

テーマ：成体脳傷害モデル動物における神経新生—海馬歯状回と嗅球を中心に—

講演者：萩田 喜代一 摂南大学薬学部教授・薬学科長

開催日時：2009年6月25日（木）午後5時15分から

場所：G棟2階 第3講義室

講演内容：近年成体脳において多分化能を持つ神経系幹細胞の存在が知られる様になった。今回、海馬歯状回及び嗅球の傷害後に神経系前駆細胞の新生がおこること、その新生促進にNMDAレセプターが関わること、またその新生細胞の生存にラジカスベンジャーが有効であることを概説する。

第17回 日本集中治療医学会東海北陸地方会

学会会長：稲葉英夫 金沢大学医薬保健研究域医学系 血液情報発信学（救急医学）

事務局：金沢大学附属病院 集中治療部 担当：後藤由和、釣本加奈子

〒920-8640 金沢市宝町13-1

TEL：076-265-2000(内線3423/3422) FAX：076-234-0973(直通)

E-mail：kyukyu@med.kanazawa-u.ac.jp 学会ホームページ：http://jsicm17-kanazawa.com/

学会テーマ：「集中治療の理想と現実」

開催日時：平成21年6月27日（土）

開催場所：金沢大学医学部講義室

プログラム概要：特別講演，ランチョンセミナー，共催セミナー，教育講演，パネルディスカッション，一般演題

「ひとこと」：加賀百万石の金沢にて、標記学会を開催する運びとなりました。学会テーマを「集中治療の理想と現実」とし、パネルディスカッションの形式で広い職種の方々からの意見を伺いたいと考えております。学会会場の近くには、日本三大庭園である兼六園や能楽堂などもあり、また繁華街の片町にも歩いていける距離です。週末のひとときを加賀百万石の伝統文化に浸りながら、「現実と理想」に思いを馳せてはいかがでしょうか。

オンコロジーセミナー

演題名：ヤツメウナギの古くて新しい適応免疫

演者：平野 雅之 博士（エモリー大学病理学部）

日時：7月28日(水)午後5時-6時

場所：がん研究所・会議室（1階）

講演要旨：ヒトを含む有顎類の獲得免疫系はT細胞抗原受容体や免疫グロブリンで抗原を認識しますが、無顎類であるヤツメウナギ(lamprey)の獲得免疫系はVariableLymphocyteReceptor(VLR)と呼ばれる全く異なる多様性獲得機構を持つ受容体で多様な抗原を認識します。VLRにはVLRAとVLRBの2種類が存在しますが、平野博士はこれらを識別する抗体を用いて、ヤツメウナギのリンパ球にはVLRAを発現するものとVLRBを発現するものの2種類あることを発見し、さらにVLRA発現細胞はTリンパ球様細胞、VLRB発現細胞はBリンパ球様細胞であることを明らかにされました。これらの結果は、T細胞抗原受容体や免疫グロブリンのような抗原受容体が確立する以前に、VLRという抗原受容体を持つT細胞様細胞とB細胞様細胞が既に存在していたことを示し、これまで想像されてきた獲得免疫系の進化プロセスに関する仮説に見直しを迫るものです。

第26回日本臨床細胞学会 北陸支部連合会学術集会

日時：平成21年9月19日（土）13時～17時

場所：金沢大学病院 宝ホール

セッション：一般演題

スライドセミナー 3題

特別講演「胆道系細胞診の見方」 獨協医科大学越谷病院病理部 國實久秋先生

世話人：金沢大学大学院形態機能病理 原田憲一

第1回日本神経病理学会東海・北陸地方会

開催日時：平成21年10月3日（土）9時～16時30分

開催場所：金沢大学医学類教育棟1階講義室にて

問い合わせ先：金沢大学大学院医学系研究科 脳老化・神経病態学（神経内科）

TEL：076-265-2292 FAX：076-234-4253 E-mail：patho@med.kanazawa-u.ac.jp

ホームページ <http://web.kanazawa-u.ac.jp/~med19/>

脳から筋・末梢神経まで、標本を持ち寄って、顕微鏡を見ながら症例検討を行う東海・北陸地域における神経病理学会の地方会を開催します。

第16回 Neuroscienc Seminar

「神経変性疾患におけるVCP蛋白質の役割」

京都大学大学院 生命科学研究科・高次生体統御学分野 垣塚 彰教授

平成21年10月13日（火）18：30～19：30 金沢大学医学部F棟1階多目的室6（学生課の隣り）

このたび、京都大学大学院生命科学研究科・高次生体統御学分野教授の垣塚 彰先生をお招きしてセミナーを開催致します。

垣塚先生は、神経科学の分野では遺伝性脊髄小脳変性症の原因遺伝子を発見され、ポリグルタミン病の概念を提唱された方としてご高名ですが、最近抗肥満・抗糖尿病作用をもつERRL1遺伝子の同定など、多方面で業績をあげられています。

今回、学部学生の特別講義のために金沢にお越しいただく機会に御講演をお願いいたしました。大変興味深いお話を拝聴できるものと思えます。どうぞお気軽に御参加ください。

第3回学際科学実験センターシンポジウム

学際科学実験センターでは隔年でシンポジウムを開催していますが、第3回シンポジウムは革新脳科学COEやこどものこころの発達研究センター、連合大学院小児発達学研究所などが中心となって開催する「社会性認識」学際脳科学シンポジウム（11月5日～7日）とジョイントで開催します。本センターのシンポジウムは、「動物の行動から学ぶ認知・コミュニケーション」というテーマで11月5日の午後に医学部記念館で開催されます。講演者とタイトルは以下のようです。

- ①テストバッテリー方式による糖鎖遺伝子改変マウスの行動解析（金沢大学・吉原亨）
- ②マウス表現型解析基盤の標準化にもとづく行動解析—理研ENUミュータジェネシスプロジェクトからマウスクリニックへ
（理研BRC・古瀬民生）
- ③マウスにおけるコミュニケーションとその遺伝的要因—行動遺伝学を通して（国立遺伝研・小出剛）
- ④ジュウシマツの歌と4つの質問（理研・BSI）
- ⑤チンパンジーからみたこころの進化と発達—比較認知科学という視点（友永雅己・京大霊長類研）

また、翌日の特別講演「コピー数多型モデルマウスでみる社会性行動」（広島大・内匠透）も本センターが主催します。

第21回 金沢大学公衆衛生学研究会

金沢大学公衆衛生学研究会は、7-8、1月を除く原則毎月第二木曜日の夜に講演形式で開催しています。毎回、疫学・統計解析、アレルギー・内分泌代謝研究、社会医学的研究などの領域から幅広く講師を募っています。学内外問わず、どなたでも参加できます。入場は無料で、事前の申込は必要ありません。部分聴講も可能です。

開催日：11月12日（木）

開催場所：医学類F棟1階 修士課程セミナー室

問い合わせ連絡先：医薬保健研究域医学系 環境生態医学・公衆衛生学教室

TEL：076-265-2218, hibino@pub.m.kanazawa-u.ac.jp ホームページ <http://web.kanazawa-u.ac.jp/~med14/index.htm>

17:30～18:00 中村裕之先生（環境生態医学・公衆衛生学 教授）「実践統計学Ⅱ－応用編－」

18:00～19:00 水野雅男先生（人間社会研究域 経済学経営学系特任教授）「地域づくりを推進する市民セクターと大学の役割」

19:00～20:00 森 茂先生（金沢大学名誉教授・前環境保全センター所長）「環境対策装置の原理と利用法」

第21回北陸病理集談会

平成21年11月14日（土）午後1時より午後6時まで第21回北陸病理集談会を金沢大学医学類教育棟（1階）第1講義室にて開催いたします。稀少例、診断困難例、示唆に富む典型例など、13題の発表を予定しています。

また、金沢大学医学部・がん局所制御学（消化器・乳腺外科）の井口雅史先生をお招きして「病理診断に基づいた最近の乳癌診療」の題目で特別講演を行っていただきます。

がん研究所・共同研究特別セミナー

テーマ：腸管の腫瘍形成におけるSmoothenedとmTORC1の役割

演者：青木正博（京都大学医学研究科遺伝薬理学）

演題：腸管の腫瘍形成におけるSmoothenedとmTORC1の役割

日時：11月16日（月）16:30-18:00

場所：がん研究所 1F会議室

内容：Apc遺伝子ノックアウトマウスにはWnt亢進にともない、腸管腫瘍が自然発生する。最近の研究により腸管腫瘍組織ではHedgehogシグナル分子であるSmoothenedとmTORC1が活性化されていることが発見された。セミナーではこれらの新発見と、beta-catenin依存的なWnt経路活性化との関係、さらに腫瘍権勢への寄与についての講演を予定している。

がん研究所・共同研究特別セミナー

演題名：癌ワクチン療法から新たな癌免疫療法へ —immunogenic cancer cell death を目指して—

演者：原田 守 教授（島根大学医学部・微生物免疫学講座）

日時：11月18日（水）午後5時～6時

場所：がん研究所・会議室（1階）

講演要旨：近年の腫瘍免疫学の発展によりT細胞に認識される癌関連抗原が多数同定され、癌ワクチン療法や癌反応性T細胞を用いた特異的癌免疫療法の臨床研究が国内外で実施されている。演者も、T細胞に認識される新規癌抗原を同定し、また、前立腺癌に対するペプチドワクチン療法を実施するために、癌ワクチン療法に用いる抗原ペプチドを同定してきた。さらに、癌ワクチン療法を受けた患者内で生じた免疫応答の解析も行ってきた。セミナーの前半では、癌ワクチン療法に伴うこれらの研究結果を紹介したい。一方、癌反応性キラーT細胞に基づく治療にも限界がある。特に、前立腺癌や乳癌では、HLAクラスI分子の発現率が低いために、キラーT細胞の誘導・移入だけでは十分な抗癌効果は期待されず、新たな治療法を工夫する必要がある。演者は、現在、免疫応答を伴う細胞死である「immunogenic」cell deathを癌細胞に誘導する抗癌剤を用いた癌治療モデルや、自然免疫レセプターであるtoll-like receptor (TLR) が癌細胞にも発現していることに基づき、TLRリガンドを用いた癌治療の基礎的研究にも取り組んでいるので、これらの研究についても紹介したい。

第19回日本メイラード学会

会 期：平成21年11月20日(金), 21日(土)

場 所：金沢エクセルホテル東急5F 金沢市香林坊2-1-1

世話人：山本 博(金沢大学)、竹内正義(北陸大学)

事務局：前田書店 金沢市石引1-5-21 TEL 076-261-0055

本学会HP：<http://www.maeda-shoten.com/maillard/>

11月20日(金) 13:00-18:00

一般演題

パネルディスカッション「メイラード反応研究の現状と将来展望」宮澤陽夫(東北大学)、宮田敏男(東北大学)

11月21日(金) 9:00-12:00

教育講演「AGEs/メラノイジンの生体応答とそのメカニズム」木苗直秀(静岡県立大学)永井竜児(日本女子大学)

一般演題

ランチョンセミナー「心血管病阻止を目指した2型糖尿病患者のリスク管理」竹内正義(北陸大学)山岸昌一(久留米大学)

第54回日本生殖医学会総会・学術講演会

学会テーマ： 生殖医療 一男と女のハーモニー

会 期：2009年11月22日～11月23日

会 場：石川県立音楽堂、ANAクラウンプラザホテル金沢

趣 旨：生殖は男と女の協同作業でありという観点から、泌尿器科と産婦人科の合同開催として、生殖に関する学術集会を開催いたします。生命体にとって必須である生殖行為は、雄性(男性)と雌性(女性)のハーモニー(調和・和合)により可能となりますが、昨今の社会的変化(晩婚化、低婚姻率、少子化)および医学的進歩(生殖補助技術の進歩)により生殖医療自体が大きな変革を遂げようとしています。我が国では、すでに生殖補助医療で出産した子供は毎年の出生数の2%近くを占め、生殖医療が日常診療として定着しています。とくに、生殖補助技術は細胞や組織の冷凍保存技術や胚芽、配偶子、生殖臓器を凍結保存の進歩により、自己のみならず自己を超えて移植が可能となり格段の進歩を遂げています。今回の学術集会の視点を男と女の協同作業におき、「生殖医療一男と女のハーモニー」を学会テーマとしました。このテーマを意識したプログラムを企画し、遺伝子・生殖腺・生殖器・配偶子等の雌雄(男女)の違いを意識しながら、科学的、医学的、社会的、倫理的な側面から生殖技術従事者に討議の場をひろく提供し、社会にアピールする事業として本学会を開催するものです。

**平成17-21年度 文部科学省 特別教育研究経費
「がん幹細胞医学の創出事業」成果報告シンポジウム 幹細胞とがん**

日時：平成21年11月27日(金) 13:30～

場所：金沢大学医学部記念館(宝町キャンパス)

セッション1：「がん幹細胞医学の創出事業」成果報告

- | | |
|---------------------------------------|--|
| ・平尾 敦 金沢大学がん研究所 教授 | ・大島正伸 金沢大学がん研究所 教授 |
| ・高倉伸幸 大阪大学微生物病研究所 教授
金沢大学がん研究所客員教授 | ・西村栄美 東京医科歯科大学難治疾患研究所 教授
金沢大学がん研究所 客員教授 |

セッション2：特別講演「幹細胞ニッチの制御」

- ・須田年生 慶應義塾大学医学部 教授

主催：金沢大学がん研究所

問い合わせ先：金沢大学がん研究所研究企画係

TEL: 076-265-2799 FAX: 076-234-4527 E-mail: t-kenki@ad.kanazawa-u.ac.jp

第56回中部日本生理学会

幹 事：多久和 陽、櫻井 武、加藤 聖、東田 陽博(金沢大学医学系研究科・医薬保健研究域医学系)

事務局：金沢大学大学院医学系研究科 血管分子生理学(第一生理学) 担当：広瀬 知恵美

〒920-8640金沢市宝町13-1 E-mail: chubu@med.kanazawa-u.ac.jp URL: <http://web.kanazawa-u.ac.jp/~med04/page27/page27.html>

開催日時：平成21年12月4日(金)～5日(土)

開催場所：石川県立音楽堂 石川県金沢市昭和町20-1(金沢駅東口 徒歩1分)

プログラム概要：中部地区の生理学研究者が一同に会して、一般口演およびポスター発表、教育講演などにより最新の研究成果を発表し、情報交換、討論を通じて研究の一層の発展をはかり、基礎医学研究成果を社会に向けて発信する。

生化学特別セミナー

日時：12月14日(月) 16:00~17:00

場所：G棟(解剖棟) 第4講義室

講師：Steven E. Shoelson, MD, PhD (Joslin Diabetes Center & Harvard Medical School)

タイトル：Obesity-induced Inflammation: Potential pathogenic Mediator and Pharmacologic Target in Type 2 Diabetes and Cardiovascular Disease

問い合わせ先：血管分子生物学教室 山本靖彦 (2181) yasuyama@med.kanazawa-u.ac.jp

がん研究所特別セミナー

演者：武藤 誠 (京都大学医学研究科遺伝薬理学)

演題：“Cellular Target Therapy” for Colon Cancer Metastasis

日時：12月18日(金) 3:00~4:00

場所：がん研究所 1F会議室

内容：武藤 誠先生は、これまでに消化管腫瘍発生に関わる数々の遺伝子改変マウスを作製し、それらを用いた解析により腸管腫瘍発生やその悪性化に関わる分子機序を遺伝学的に明らかにして来ました。最近では、APCとSmad4の複合変異により形成される腸腫瘍組織の微小環境に特異的に骨髄からCAP cellが遊走し、それが腫瘍細胞の浸潤を促進するという、新しい悪性化メカニズムを発見しました。これらの発見をはじめ新しい知見を基盤とした、大腸がん転移に対する“Cellular Target Therapy”についてのセミナーを予定しています。

北陸がんプロフェッショナル養成プログラム がん患者さんの声からつくる支援のかたち ～イギリスのマギーセンターから学ぶ 環境・空間・ひと～

目的：本講演会は、がんと共に生きる人々が自分らしく生き抜くことを支えるための支援のあり方をがん患者の声から学びつくりあげるためのかたちを整えていく第一歩としたい企画である。真に患者さんの求める支援のあり方について、日本の医療が直面している課題を明らかにし、イギリスのがん患者支援センターのマギーセンターから「がん患者さん自らの力を信じ、自分自身を取り戻すことができる支援」を学ぶことより、今後も継続的に、がん患者、大学、行政、企業、一般市民の協力のもとで「がん患者さんの声からつくる支援のかたち(体制)」を整えていくために本講演会を第一歩とする。

日時：2010年2月20日(土) 13:00~17:00

会場：北國新聞赤羽ホール 交流ホール

対象者：がん患者、一般市民、行政関係者、企業関係者、大学関係者、医療保健福祉従事者

主催：北陸がんプロフェッショナル養成プログラム

共催：石川県在宅緩和ケア支援センター

お問合せ先：北陸がんプロフェッショナル養成プログラム事務局

〒920-8640 金沢市宝町13番1号 金沢大学大学院医学系研究科内

TEL (076) 234-4205、(076) 265-2854 FAX (076) 265-2855

E-mail: sanari@med.kanazawa-u.ac.jp

にこにこ長寿をめざす健康エクササイズ 市民公開講座(第20回日本老年医学会北陸地方会共催)

平成22年3月14日(日曜日) 午後2時~4時

会場：近江町交流プラザ 4F 集会室

金沢市青草町88番地

内容：講演と運動指導

・講演

・身体・脳の健康増進のための運動：藤原勝夫先生(金沢大学 教授)

・関節の痛みを防ぐ話と運動実技：片田圭一(石川県立中央病院リハビリテーション部、石川県理学療法士会長)

・運動を続けるコツ：山崎松美(金沢医科大学看護学部 看護師)

事務局：野村英樹、西崎早苗(事務)

〒920-8641 石川県金沢市宝町13-1 金沢大学附属病院

E-mail: soshin@med.kanazawa-u.ac.jp

International Conference on Social Brain: Autism and Neuroethics (Kanazawa University 150th Anniversary lecture and symposium Series 7) United Graduate School of Child Development Kick off Symposium

この度、国際シンポジウム (International Conference on Social Brain: Autism and Neuroethics Kanazawa University 150th Anniversary lecture and symposium Series 7 United Graduate School of Child Development Kick off Symposium) を平成22年3月24日、25日の2日間、金沢大学十全講堂を会場として開催する予定で、現在鋭意準備を進めているところです。

国際シンポジウムは「若い研究者・院生等への海外の研究者との積極的交流をはかる機会をもうける」という大きな目的をもっています。今回は、21世紀COEプログラム革新脳科学が自閉症の理解と克服に一定の成果をあげたことに関連し、自閉症研究の遺伝子行動、用語等の分野の第一線の研究者を招聘しています。

主催：大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所 金沢校、

金沢大学子どものこころの発達研究センター（問い合わせ先：076-265-2458）

がん研究所特別セミナー

第81回日本糖尿病学会中部地方会

会 期：平成22年4月17日（土）11時30分～17時00分（予定）

会 場：金沢大学医学類講義棟

会 長：金沢大学 内分泌・代謝内科 武田仁勇 科長

プログラム：

1. ランチョンセミナー「インクレチンとその関連薬の基礎と臨床」(仮題) 清野 裕 先生(関西電力病院 院長)
 2. ミーツ・ザ・スペシャリスト1「劇症1型糖尿病：最新の話」 今川 彰久 先生(大阪大学大学院 内分泌・代謝内科学 講師)
 3. ミーツ・ザ・スペシャリスト2「糖尿病療養指導ポイントレッスン」 稲垣美智子 先生(金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域教授)
- ランチョンセミナーはインクレチンの第一人者である清野裕先生にお願いをしております。歴史的経緯、現在の治療の特徴、今後の展望といった興味深いお話が期待されます。

また今回は特にミーツ・ザ・スペシャリストのコーナーを設け今川彰久先生、稲垣美智子先生をお招きしました。先生方にはミニレビューと引き続いての一般演題における討論をお願いしております。

多数の方々の御参加をお願い申し上げます。

第58回日本産科婦人科学会北日本連合地方部会総会・学術講演会

会期：平成22年9月18～19日（土・日）

会長：井上 正樹（金沢大学医学系研究科産婦人科教授）

事務局：〒920-8641 石川県金沢市宝町13-1 金沢大学医学部産科婦人科学教室内

第58回日本産科婦人科学会北日本連合地方部会総会・学術講演会事務局

学術講演会実行委員長：高倉 正博

TEL：(076)265-2425 FAX：(076)234-4266

内容：招請講演、特別講演、ランチョンセミナー、一般演題